

荒川ダム群等の現状と今後の見通しについて



滝沢ダム(平成26年10月20日撮影)

平成26年10月22日

関東地方整備局

1. 荒川上流4ダム等の現状

(1) 秋ヶ瀬地点上流平均降水量の状況（平成26年10月20日までの降水量）

平成26年4月以降の秋ヶ瀬地点上流域平均降水量は、4月、5月、7月、8月及び9月が平年を下回りました。なかでも、4月の降水量は51mm（平均値（昭和40年～平成25年）に対する割合は52%）であり、昭和40年以降の49年間で9番目に少ない値となりました。9月の降水量は125mm（平均値に対する割合は53%）であり、過去49年間で8番目に少ない値となりました。

10月の降水量は、20日までの累加で251mmとなっています。（10月の降水量の平均値は147mm）

（図-1、表-1）

図-1 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量

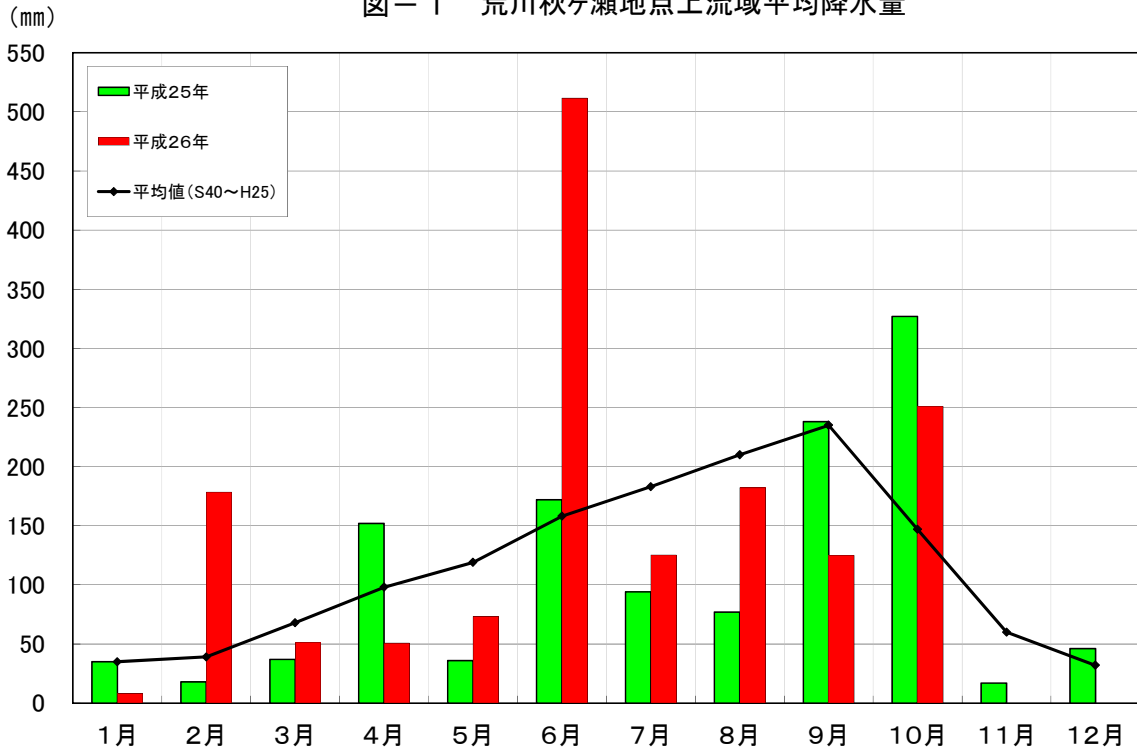


表-1 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（平成26年10月20日まで）

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975	利根川・荒川夏渇水
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657	利根川・荒川夏渇水
平成4年	26	15	118	136	117	250	87	177	63	285	52	29	1,355	荒川夏渇水
平成5年	82	34	37	44	76	186	275	276	204	112	113	25	1,464	荒川夏渇水
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191	利根川・荒川夏渇水
平成7年	24	25	111	44	129	239	177	109	180	73	24	0	1,135	荒川夏渇水
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965	利根川・荒川冬渇水
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055	利根川・荒川冬渇水
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657	利根川夏渇水
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	245	93	54	33	1,335	利根川夏渇水
平成25年	35	18	37	152	36	172	94	77	238	327	17	46	1,249	利根川夏渇水
平均値 (S40-H25)	35	39	68	98	119	158	183	210	235	147	60	32	1,383	
平成26年	8	179	51	51	73	512	125	182	125	251			1,557	
平均値に対する割合 (%)	23	458	75	52	62	324	68	87	53	171			113	

※. 荒川取水制限実施月（一時緩和含む）

※. 秋ヶ瀬上流域面積 2,021 km²

(2) 荒川上流4ダムの貯水状況等(平成26年10月21日0時現在)

平成26年の荒川上流4ダムは、4月12日に貯水量1億430万m³(貯水率72%)に達し、夏期制限水位に移行した期間も概ね満水で推移しました。

10月は台風18, 19号等の降雨によりダムの貯水量が回復し、10月21日0時の貯水量は8,543万m³、貯水率59%、(貯水量の平均値(平成12年~平成25年)に対する割合は168%)です。(表-2、図-2)

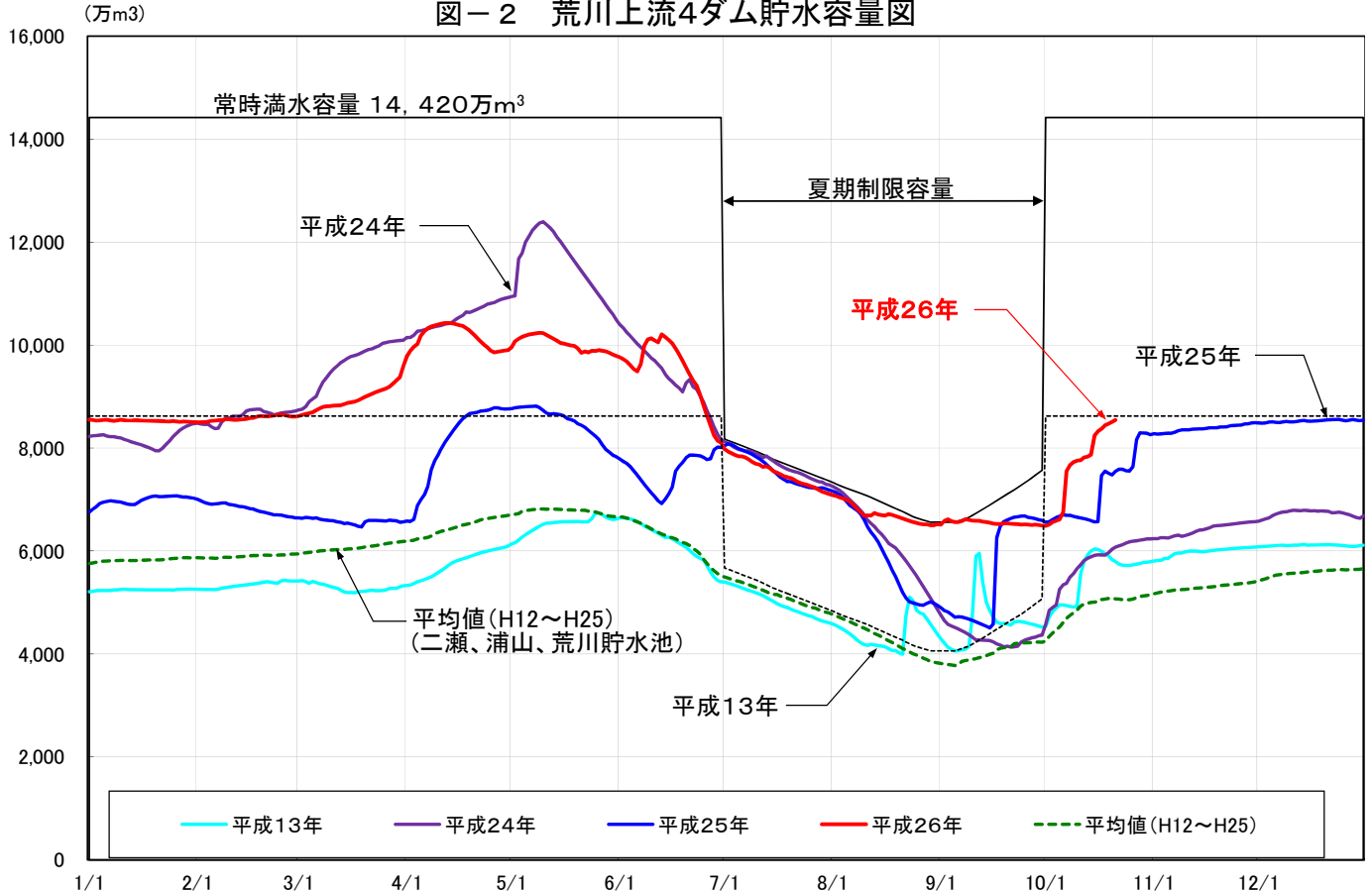
表-2 荒川上流4ダム貯水量

平成26年10月21日0時現在

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)	前日補給量 (万m ³ /日)
二瀬ダム	2,000	12	1	9
滝沢ダム	5,800	3,794	65	-28
浦山ダム	5,600	3,718	66	-16
荒川貯水池	1,020	1,019	100	0
4ダム合計	14,420	8,543	59	-35
3ダム(二瀬、浦山、荒川貯水池) 合計の平均値(平成12年~平成25年)		5,072	(平均値に対する割合 168%)	

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。)
4. 平均値に対する割合は、二瀬ダム、浦山ダム、荒川貯水池の3ダムの平均貯水量に対する割合であり、参考値。

図-2 荒川上流4ダム貯水容量図



※H12~H25平均は、二瀬ダム、浦山ダム、荒川貯水池の3ダムの合計である。

2. 今後の見通し及び対策

(1) 見通し

①平成26年10月16日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(10月18日から11月17日までの天候見通し)によると、平年と同様に晴れの日が多く、向こう1ヶ月の降水量は「平年並」の確率40%となっています。また、9月24日気象庁発表の3か月予報(10月から12月までの天候見通し)によると、10月の天気は数日の周期で変わり、降水量は「多い」確率40%となっており、11月は平年と同様に晴れの日が多く、降水量は「平年並」の確率40%となっており、12月は平年に比べ晴れの日が少なく、降水量は「平年並」または「多い」確率ともに40%となっています。

なお、9月24日気象庁発表の寒候期予報(12月から2月までの天候の見通し)によると、平年と同様に晴れの日が多く、降水量は「多い」確率40%となっています。

1か月予報(平成26年10月16日発表)

【気温】関東甲信地方	20	30	50
【降水量】関東甲信地方	30	40	30
【日照時間】関東甲信地方	30	30	40

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3か月予報(平成26年9月24日発表)

【降水量】

[関東甲信地方]

3か月	20	40	40
10月	30	30	40
11月	30	40	30
12月	20	40	40

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

寒候期予報(平成26年9月24日発表)

〈冬(12月~2月)の気温、降水量の各階級の確率(%)〉

【気温】関東甲信地方	30	30	40
【降水量】関東甲信地方	30	30	40

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

② 荒川上流4ダムのうち、二瀬ダムは施設の維持管理に必要な工事を実施するため、貯水量を制限した運用を行っていますが、来年の1月末までには工事を完了させる予定です。

また、一般的に冬期の降水量が少なくなることから、下流域の水需要を満たすためにダムからの補給が予想されます。

(2) 対策

① [荒川水系におけるダム群の貯水量の確保]

今後は、荒川流域の降雨状況や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

このため、荒川ダム群の貯水量の状況や降水量の状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

② [荒川水系渇水調整協議会の取り組み]

荒川水系渇水調整協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。

3. 非洪水期における工事制限水位等について（予定）

